

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標 豊かな人間性を持ち、主体的・創造的に生きていくことができる健康でたくましい子どもの育成
 ・目指す児童像 「本気で学べ」「元気に遊べ」「正しく生きよ」「喜んで働く」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

人間尊重の精神を基盤とした全教育活動を通して、学校教育目標の具現化を進め、児童一人一人の有する能力を伸ばしつつ、社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うとともに、保護者及び地域住民との連携・協働により、地域とともにある信頼される学校づくりを推進する。

- ・学びのある学校……豊かな体験を通して、自信をもち自立した子どもを育む学びのある学校
- ・仲間のいる学校……友達と活動し、共に生きる喜びを感じる仲間のいる学校
- ・楽しい学校……夢の実現を目指して努力する子どもを支援する、楽しさのあふれる学校
- ・信頼される学校……家庭、地域と協働して子どもを育む、地域に開かれ信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 全教職員による目的の共有化、OJTを意識した勤務と主体的な学校経営への参画促進
- (2) 指導力向上のための研修の充実、行動規範の徹底と危機管理等に関する意識の向上、働き方改革の推進
- (3) 知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育む教育の実践《けやきプラン2018》
- (4) 地域とともにある学校づくりと地域に根差した取組の推進
- (5) ○小中一貫教育の推進（地域学校園としての研究推進）

【一条地域学校園教育ビジョン】基本をしっかりと身に付け、地域に生きる子どもを育む一条地域学校園

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】・「宮小けやきプラン2018」の推進による特色ある教育活動の推進

○「小中一貫教育と地域学校園」の取組の推進

【学 習 指 導】・自分の思いや考えが相手に伝わるように表現できる児童の育成～書く活動を通して～

【児 童 生 徒 指 導】・人とかかわりを通して、きまりを守ったり人を思いやったりすることができる児童の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】・自らの健康と安全に関心を持ち、進んで体力づくりに励む児童の育成

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケートの「私は、今の学校が好きです」⇒児童の肯定的回答85%以上	・縦割り班活動等の充実や、児童会主体のあいさつ運動・いじめゼロ運動、スポーツ大会実施等を通して、主体的に「人とかかわる力」を育てる。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 94.4% ・縦割り班活動（なかよしタイム）やあいさつ運動、いじめゼロ運動などを通じ、異学年交流により「人とかかわる力」を伸ばす児童が多く見られた。 【次年度の方針】 ・「人とかかわる力」を育てるため、本年度同様、縦割り班活動や児童会主体のあいさつ（ハイタッチ）運動、いじめゼロ運動を引き続き実施する。

A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】全体アンケートの「教職員は協力し、教えるべきことを熱心に指導している」⇒保護者の肯定的回答 85%以上	・児童の実態を把握し、課題と思われる点を共通理解する場を意図的に設け、全校体制で指導する。 ・必要に応じてケース会議を開き、児童の実態に即した指導体制を整える。	【達成状況】 保護者の肯定的回答 96.3% ・職員による生活当番の体制を整え、子どもたち自身が意識しやすいよう、具体的な生活目標を提示し、児童と教員の共通理解のもと指導に当たった。 ・児童指導上の共通理解の場を定期的に設けることで、全職員で指導に当たる体制を整えた。 【次年度の方針】 ・児童の実態を把握した上で、課題と思われる点を共通理解する場を設け、全校体制で継続的に指導する。
A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒児童の肯定的回答 85%以上	・授業を通して、正しい言葉遣い(発言・発表・友達の呼び方等)を指導し徹底を図る。 ・「宮小こどものきまり」や「学びのマナー」を週目標に位置付けるなどして意識させる。また、発達段階に応じた指導を全職員で共通理解し、改善を図りながら継続的に取り組む等、指導の充実を図る。 ・「生活目標ふり返しカード」を活用することで、さらに意識付けを図る。 ・「宮小3つの約束」を活用し望ましい行動習慣の形成に努めるとともに、「宮小キラリ賞」を設定し善行を奨励する。	【達成状況】 児童の肯定的回答 87.6% ・「宮小3つの約束」を初め、「宮小のきまり」、「学びのマナー」、「生活目標」を意識できるよう、児童の実態に合った指導を常に行ったことで落ち着いて生活できる児童が増えた。 ・望ましい行動を実践した児童を「宮小キラリ賞」として表彰するとともに写真を掲示し、つながりのある指導を継続して行った。 ・全職員の共通理解のもと、廊下を巡回して児童への声掛けを行い、きまりやマナーを守ることへの意識付けを図った。 【次年度の方針】 ・「宮小のきまり」や「学びのマナー」、「生活目標ふりかえりカード」をより活用し、指導の充実を図り児童に意識させることで実践に結び付ける。また、「宮小キラリ賞」を計画的に実施し、児童に目標を伝えることで進んで行動できるようにするとともに、教師もより意識して指導に当たるようにする。 ・全職員で全学級を育てるという意識をもち、校舎内の巡回等を通して、声掛けや指導を行っていく。
A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 85%以上	・とちぎっ子学習状況調査や全国学力・学習状況調査の結果を十分検討し、児童の実態に即した内容の指導や形態の工夫を行う。 ・全校体制で、課題の明確な提示や分かりやすい発問・板書を工夫し、児童一人一人が分かる授業を目指す。	【達成状況】 児童の肯定的回答 98.1% ・授業では、本時のめあてを青、まとめを赤で囲むなど、課題の明確な提示や分かりやすい発問・板書を工夫し、「分かる授業」の展開に努めた。 【次年度の方針】 ・4月に行われる、とちぎっ子学習状況調査や全国学力・学習状況調査の結果を十分検討し、児童の実態に即した内容の指導や形態の工夫を継続して行う。 ・児童の発達段階及び実態に即して、習熟度別、少人数、T.T等学力向上実践加配が有効に指導に関わることができる学習形態を模索していく。

A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 85%以上	・いじめに関するアンケートや教育相談を有効に活用し、事実の把握に努めると共に、いじめは許されない行為であることを徹底できるよう、様々な機会を生かして継続的な指導を行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答 98.4% ・年4回のいじめに関するアンケートや教育相談の機会を有効に活用し、児童の実態の把握に努め、安心して学校生活を送れるように、絶えず指導に当たった。 ・いじめにもつながる情報モラルに関して、スマートフォンや携帯電話の使い方等についての児童指導だよりを配付し、各学級において実態に応じた指導を行ったほか、保護者への啓発を行った。 【次年度の方針】 ・いじめはいかなる理由があっても許されないという意識をもたせるために、様々な機会を生かし継続的な指導をする。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】全体アンケートの「学校の日課、授業、行事等は、適切に実施されている」⇒保護者の肯定的回答 85%以上	・保護者・地域の方々の参加を得る行事等について、事前の調整を工夫し、丁寧な準備のもとに実施する。行事終了後は振り返りを行い、次年度への改善を図る。	【達成状況】 保護者の肯定的回答 96.3% ・連絡調整や打合せ等を行い、ほぼ予定通りに実施することができた。 【次年度の方針】 ・保護者・地域の方々の参加を得る行事等については、早めに連絡・調整を行い実施する。また、行事実施後は振り返りを行い、次年度に改善を図れるようにする。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開等で、積極的に情報を発信・提供している」⇒保護者の肯定的回答 85%以上	・年2回の学校公開や土曜授業を、学校を知ってもらう機会として効果的に実施する。 ・毎月、学校だより・学年だより等を発行するとともに、適宜ホームページを更新する。	【達成状況】 保護者の肯定的回答 96.3% ・土曜授業やオープンスクール、様々なたより、学校ホームページなどを通して、学校の実情を地域の方や保護者に伝えられた。 【次年度の方針】 ・引き続き学校公開や情報提供を行い、より理解が得られるようにする。また、ホームページの更新も適宜行う。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」⇒保護者の肯定的回答 85%以上	・地域コーディネーターを活用して、教育活動全般にわたり協力を得られる人材を増やしたり、学校園で協力して人材確保に努めたりする。 ・街の先生・地域の人材の参画を得た授業や、企業の出前講座等を積極的に行い、地域の教育力をさらに学校に取り入れていく。	【達成状況】 保護者の肯定的回答 92.6% ・地域コーディネーターが窓口になり、地域と学校が連携・協力した活動を実施できた。 【次年度の方針】 ・街の先生や地域の人材を発掘し、授業に取り入れられるよう計画・連絡調整していく。 ・地域・企業等と連携協力して行った教育活動を保護者にも知らせる。

A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、清掃がしっかり行われ、学習しやすい」⇒児童の肯定的回答 85%以上	・清掃用具の使い方や清掃の仕方等を指導する（特にトイレ清掃）と共に清掃強化週間を実施し環境整備に努める。 ・教職員も身支度を整え、時間いっぱい児童と一緒に清掃する。 ・廊下の環境整備に努め、指導していく。	【達成状況】 児童の肯定的回答 92.5% ・今年度は清掃強化週間を3回行った。すす払いも行い、環境整備に努めた。 ・清掃方法について児童と確認する機会を清掃担当交代時に設けた。 【次年度の方針】 ・清掃強化週間を引き続き行い、環境整備に努め、指導をしていく。 ・清掃方法について児童と確認する機会を、清掃分担交代時に継続して設けていく。 ・校内美化コンクール等の実施や内容を今後、検討していく。
A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	・地域や学校園と連携した「あいさつ運動」を継続して行い年3回小中合同で実施する。 ・6年児童が中学校の合唱コンクールに参加したり、クリーンアップキャンペーンに中学生が来校し、地域住民や保護者、小学生とともに校庭清掃を実施したりして、小中が連携した取組を実施する。 ・学習や体力の向上、図書館教育、食育など様々な領域において学校園で取り組んでいることを児童に還元し、周知に努める	【達成状況】 児童の肯定的回答 91.9% 教職員の肯定的回答 95.8% ・小中一貫教育・地域学校園での様々な取組を事前に連絡調整しながら計画に従って実施し、小中学校の積極的な交流を推進することができた。 【次年度の方針】 ・小中合同あいさつ運動がさらに充実した活動になるよう、中学校生徒会との連携を強化していく。 ・6年児童が乗り入れ授業や合唱コンクール、中学校訪問に参加することを通して、中学校への理解を深め、明るい希望をもって進学できるよう努める。 ・学習、健康・体育、生活の各部会での活動を教職員間で共通理解を図り、指導に活かす。
A 11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。 【数値指標】全体アンケートの「多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。⇒教職員の肯定的回答 80%以上	・学級担任とALTの連携・分担について、それぞれの役割を明確にし、適切なチーム・ティーチング等を行う。 ・かがやきルーム指導員と連携・協力を図り、個に応じた学習指導を行う。 ・学習に必要な資料等を学校図書館司書と連携し準備したり授業で活用したりする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 54.2% ・多様な専門性を有する学校スタッフとの連携協力は、ある程度できているが、業務の縮減までには至らなかった。 【次年度の方針】 ・多様な専門性を有する学校スタッフと連携しながら業務を適切に分担していく。 ・ALTにも、教材作成等を依頼する。

教育活動の状況	生 活	A12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。 【数値指標】全体アンケートの「教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。⇒教職員の肯定的回答80%以上	・外国語活動主任や担任は、授業の計画や教材作成の依頼、授業の振り返り等、ALTと円滑なコミュニケーションを図ることができたか。 ・学習指導を効果的に進めるために、かがやきルーム指導員や学校図書館司書と円滑なコミュニケーションを図ることができたか。 ・職員会議や研修などで学習指導や児童指導に関わる情報交換や共通理解を図ることができる場を設ける。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答 91.7% ・多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションは、時間を確保しながら図れた。 【次年度の方針】 ・職員会議や研修、打合せ等で学習指導や児童指導に関わる情報交換や共通理解を図ることができる場を適宜設ける。
		B1 「魅力ある学校づくり地域協議会」を有効活用し、学校経営の充実を図る。 【数値指標】全体アンケートの「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」⇒地域住民の肯定的回答85%以上	・学校で課題となっていることを積極的に説明し、協議会の意見を反映するとともに、一体となって課題解決にあたる。 ・地域人材を活用したより効果的な体験活動を実施し、学校教育の充実に努める。	B	【達成状況】 地域住民の肯定的回答 100.0% ・地域協議会を年4回開催し、学校経営の方針等を説明したり、協力や要望を伝えたりする貴重な場となっている。また、授業参観や給食視察などや日常の地域の様子などから、貴重な意見を聞くことができ、教育活動に反映することができた。 ・あいさつ運動や登下校指導、地区内の環境点検等で、地域の方々の積極的な協力を得ることができた。 ・防災訓練、クリーンアップキャンペーン、あいさつ標語コンクール等、地域と一体となった活動を実施し、児童は充実した学校生活を送ることができた。 ・クリーンアップキャンペーンは、今年度から土曜授業の一環として、高学年が取り組む活動とした。保護者・中学校からの参加のほか、地域とも連携を図ることにより、地域の組織力を生かし多数の参加があり有意義な活動となった。 ・各学年とも地域人材を活用して、効果的な体験活動を実施することができた。 【次年度の方針】 ・協議会と連携を図りながら各活動を見直し、学校教育がさらに充実するよう努める。
		A13 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】「児童は時と場に応じたあいさつをしている」⇒児童の肯定的回答85%以上	○小中学校・家庭・地域と連携した「みやはらあいさつ運動」を継続し、あいさつの定着を図る。(「みやはらあいさつの日」毎月1日) ・教職員が率先してあいさつするとともに、具体的な時と場に応じたあいさつや発達段階に応じたあいさつができるように、道徳や特別活動などにおける意図的な指導や日常的な指導を行う。 ・縦割り班やクラスでのあいさつ運動を実施し、意識を高めるようにする。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 94.7% ・中央委員による毎月のあいさつ運動や代表委員による2回のあいさつ運動により、児童の意識も高くなった。昨年度から始まった「ハイタッチ運動」は教師を中心に実施した。また、あいさつの「語先後礼」も定着してきた。 【次年度の方針】 ・今年度のあいさつ運動の継続とともに、学年に応じたあいさつの仕方（教師や来客に対しての）について学級活動などを用いて指導し、教職員も率先してあいさつをしながら、より意識付けを図っていく。

		A14 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】「児童は時と場に応じた言葉づかいをしている」⇒児童の肯定的回答85%以上	・国語、道徳、学級活動の授業を通して、相手の立場や時と場に応じた正しい言葉づかいができるように、話し方の指導を行っていく。 ・児童の「さん」づけを意識して指導するとともに教師も言葉づかいには十分配慮する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 86.3% ・相手に応じた言葉づかいができる児童が増えてきたが、個人的に指導が必要な児童もいる。 ・児童の「さん」付けについては学級では概ねできているが、さらに定着を目指すためには、常時、どの職員もという認識が必要である。 【次年度の方針】 ・今年度同様、各教科、特別の教科道徳、学級活動等を通して、正しい言葉づかいができるよう指導していく。 ・児童の「さん」付けについては、全職員で再確認し、意識をもって指導に当たる。
		B2 児童は、学校生活の中で、みんなのために、進んで活動したり働いたりしている。 【数値指標】学校独自質問の「わたしは、お手伝いや係の仕事、ボランティア活動などをしている」⇒児童の肯定的回答85%以上	・ボランティア活動について、児童会が主体となって朝会で呼びかけたり、活動の様子を学校だよりや学年だより、地域学校園だよりなどで紹介したりして、意欲を高めていく。 ・道徳の時間等でボランティアの意義や助け合うことの大切さを教え、日常生活での実践の場で指導する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 91.0% ・今年度はクリーンアップキャンペーンを土曜授業の活動として設定したことで、保護者の参加が増えた。 ・赤い羽根募金に合わせて、朝会時に児童会からの呼び掛けを行ったり、代表委員による昇降口での回収を行ったりしたことで、ボランティア活動に対する意識が高まった。 【次年度の方針】 ・今年度と同様に、ボランティア活動がある際には、各学級に呼び掛けを行っていく。 ・また、活動の様子を学校便りなどの各種便りを通して紹介し、意欲を高める。
	健康・体力	A15 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】「児童は休み時間や放課後などに進んで運動している」⇒児童の肯定的回答85%以上	・児童が、目標を決めて進んで取り組めるように、各種の検定やがんばりカードなどを工夫改善し、指導に生かしていく。 ・共遊やクラス遊びを工夫し、校庭での運動を奨励する。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答 83.2% ・鉄棒や水泳、なわとびなどのカードを使って自分の目標を設定し、取り組むことができた。 ・業間や昼休みには、外で元気に遊ぶ児童が多いが、室内で過ごしている児童も見られる。 【次年度の方針】 ・運動委員会等を中心にスポーツイベントを企画し、児童が進んで運動する機会を作っていく。 ・今後も、業間や昼休みの外遊びを奨励していく。

学 習 等	A16 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、好き嫌いなく給食を食べている（きれいなものでも1口は食べている）」⇒児童の肯定的回答80%以上	・学校栄養士と連携し、教科における食に関する指導や生活習慣に関する指導を行うとともに、給食時の栄養指導等を継続して行う。 ・各種便りで保護者の啓発を行い、家庭と連携を図っていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答 93.2% ・お弁当の日の計画・振り返りカードを活用して、家庭へ食育の啓発を図ることができた。 ・給食指導も含め楽しい雰囲気のもと給食を食べることができた。 ・学校栄養士による給食中の巡回指導や授業での学級指導により、給食に対する児童の意識が高まった。 ・郷土料理や行事食、世界の料理を献立に組み入れることで、児童の興味関心が高まった。 【次年度の方針】 ・今年度同様、栄養指導を継続して行う。 ・今年度同様、各種便りで保護者の啓発を行い、家庭と連携を図っていく。
	B3 給食後に進んで歯磨きを行っている。 【数値指標】学校独自質問の「わたしは、歯磨きをしている」⇒児童の肯定的回答95%以上	・学級指導や給食後の歯磨き指導を工夫する。(養護教諭の各教室での指導の継続、共通のBGM、保健委員会の主体的な活動等) ・保健だよりの予防や治療の勧め等により、家庭の協力理解を図る。 ・はみがき強化週間を設け、意識付けを図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答 98.1% ・歯磨き指導の時間に曲を流すことによって、時間を確保することができた。 ・保健委員会の活動によって、歯みがきの大切さを再確認することができた。 ・歯磨き強化週間を設けることで、児童の意識を高めることができた。 【次年度の方針】 ・保健委員会の児童が、朝会時の集会活動や休み時間等に各教室を訪問したり放送をしたりすることによって、子どもたち自身の歯磨きに対する意欲を継続できるようにする。 ・学級での指導を継続して行う。 ・年2回強化週間を設けて、歯磨きの習慣付けを図るようにする。
	A17 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」⇒児童の肯定的回答80%以上	・学習意欲を向上させるために、魅力のある学習課題及び提示の仕方を工夫する。さらに、学び合いの工夫をしたり学習したことを生かせる場を工夫したりする。 ・児童が「話し合い」のスキルを習得できる場を意図的に設定したり話題に沿った話し合いができる場を増やしたりするよう努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答 91.0% ・魅力ある学習課題提示及び提示の仕方を工夫したり、ペア学習やグループ学習などを取り入れたりして、児童が自分の考えをきちんともち、相手に伝えることができるような授業展開に努めた。 【次年度の方針】 ・今後も継続して、様々な学習活動の中で話し合い活動の場面を設定していく。

A18 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	・児童の実態に応じた、分かりやすい課題を提示することで、見通しをもって学習活動に取り組めるようにする。 ・「学びのマナー」の基本スタイルに基づき、発達段階に応じた学習態度・技能が身に付くように、各学年で重点項目を決め、効果的な指導を工夫する。 ・「学力向上専門員」の支援のもと、具体目標を決めて指導にあたる。	【達成状況】 児童の肯定的回答 89.1% ・「学びのマナー」に基づき、生活目標を作り、隔週末に生活目標の振り返りをして、次に生かせるように指導した。 【次年度の方針】 ・発達段階に応じた学習態度・技能が身に付くように「学びのマナー」の指導をより徹底して行う。 ・児童の実態に応じた、分かりやすい課題を提示することで、見通しをもって学習活動に取り組めるようにする。 ・「よい聞き方」について提示して児童の意識を高めると共に、集中して考えながら聞く力を伸ばすために、聞き書きする活動を設定していく。
A19 児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	・地域でのボランティア活動や行事への参加を奨励するとともに、学年だよりや学校だより、懇談会等を通して保護者の協力が得られるようにする。 ・児童が立てる長期休業中の計画に、地域でのボランティア活動や行事を位置付け、参加への意識を高める。	【達成状況】 児童の肯定的回答 86.6% ・地域でのボランティア活動や行事への参加を奨励するとともに、学年だよりや学校だより、懇談会等を通して保護者に協力を呼び掛けた。 【次年度の方針】 ・引き続き、地域でのボランティア活動や行事への参加を奨励するとともに、学年便りや学校便り、懇談会等を通して保護者への協力を呼び掛ける。
B4 家庭学習を続ける習慣が身に付いている。 【数値指標】学校独自質問の「わたしは、宿題や自主学習を決めた時間にやっている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	・毎日の宿題で基礎学力の定着を図る。 ・学年ごとに、発達段階に応じた自主学習の内容と方法を具体的に示し指導する ・家庭学習の定着の意義や学校での指導内容を、学級懇談会や学年だより等で保護者に知らせ、より一層の理解や協力を得られるように努める。 ・「家庭学習強調週間」を実施し、取組の徹底・充実を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答 86.0% ・「家庭学習の手引き」に基づいて、家庭学習の内容と方法を具体的に示し、個に応じた指導を行ったが個人差が見られた。 ・学校全体として音読と計算を毎日宿題にし、家庭学習の習慣を身に付けられるように指導した。 ・「家庭学習強調週間」を実施し、取組の徹底と充実を図った。 【次年度の方針】 ・今年度同様、家庭学習の定着の意義や学校での指導内容を、学級懇談会や学年便り等で保護者に知らせ、継続指導の重要性を伝えるとともに、引き続き協力を得られるように努める。 ・引き続き「家庭学習強調週間」を実施する。

本校の特色・課題等	B 5 児童は、本をよく読んでいる。 【数値指標】学校独自質問の「児童は、本を読んでいる」⇒保護者の肯定的回答80%以上	・読書の質の深化を図るような図書室利用を工夫する（学校司書と連携した読書指導の実践・個に応じた選書支援（読書コンシェルジュ）・学校のオアシスとしての環境づくり、蔵書の充実）。 ・頑張る学校プロジェクト「宮小本はともだちプロジェクト」の実践、家読（うちどく）の奨励等を通して、家庭読書の充実を図る。 ・朝の読書15分間の充実、担任による読み聞かせなど、本に親しむ機会を増やすとともに様々な活動で図書室を有効に活用する。 ・多読者の表彰の場を継続して読書への意欲を高める。 ・読んだ本の感想を記録・蓄積し、共有する機会をつくることで、読書の幅を広げる。	【達成状況】 保護者の肯定的回答 68.7% ・読み聞かせ「おはなしたのしいね」「おはなしワクワク」、家読「親子ブックリレー」を実施し、読書の習慣を身に付けさせるとともに、読書意欲を高める工夫をした。また、「けやき読書週間」で様々なイベントを実施し、読む楽しさを味わえるようにした。 【次年度の方針】 ・低学年から読書の習慣を身に付けられるよう指導し、家庭への啓発も引き続き取り組む。 ・朝の読書の時間までに読む本を決めておくなどして、15分間の読書時間を充実させたり、担任による読み聞かせをしたり、図書室利用の時間を有効に活用したりして、本に親しむ機会を増やす。 ・学年に応じて宿題として読書に取り組みせたり、けやき読書週間中は読書を家庭学習の課題にしたりして、学校だけでなく家庭でも読書に親しめるような機会を積極的に設けていく。
------------------	--	--	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

- ・肯定的回答率を単純に増減のみで昨年度と比較すると、上昇した質問が下降した質問よりも多かった。肯定的回答率が5%以上上昇した質問を昨年度から評価が上がったとし、逆に5%以下下降した質問を昨年度から評価が下がったとすると、評価が上がった質問が保護者は4つ、児童は3つあり、評価が下がった質問は保護者・児童とも0であった。このことは、学校の取組が保護者や児童から評価され信頼を得ることができたからであると考えたい。一方、地域住民の回答では、評価の上昇した質問が2つに対して評価の下がった質問が3つあった。数値的には肯定的回答率が80%を下回ってはなかったが、学校の取組を十分に理解してもらえなかったとも言える。今まで以上に地域と学校との連携を図っていきたい。
- ・今年度も各種便り等を通して子どもの様子や家庭・地域と連携した取組等に関する情報を積極的に発信してきたため、「学校は積極的に情報を発信している。」「学校の日課、授業、行事などの教育課程は、適切に実施されている。」「学校全体に活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である。」についての評価が、教職員、保護者、地域住民では、95%以上と昨年に引き続き高かった。
- ・「宮小3つの約束」や「生活目標ふり返しカード」を活用し、きまりやマナーを守ることの大切さを意識させ指導してきたことで、「児童は授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」についての評価が、教職員、保護者、地域住民、児童すべてで上昇した。
- 「宮の原あいさつ運動」は、引き続き「まちづくり推進協議会」を中心とした地域の方々や一条中学校生徒会の協力を得たり代表委員会を中心に全校体制で積極的に取り組んだりしたことで、昨年度と比較すると教職員、保護者、地域住民、児童すべての肯定的回答の割合が増え、地域の方々からは直接お褒めの言葉をいただくことができた。
- ・基礎・基本の定着をめざした授業の工夫や家庭学習の奨励、国語科の実践研究を通じた授業力向上の取り組み、さらに学力向上専門員による指導力向上のための研修を進めたことで、学習態度に関する質問である「児童は、授業中に進んで話し合い、分かりやすく発表するなど積極的に学習している。」「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」について、教職員、保護者、地域住民、児童すべての評価が上昇した。また「児童は、宿題や自主学習をしている。」でも、教職員、保護者、児童の評価が上昇しており、家庭学習への取組についても成果が見られた。
- ・「児童は、好き嫌いなく給食を食べている。」は、教職員・保護者・児童とも昨年度より肯定的回答割合が上昇した（地域住民への質問はなし）。特に保護者・児童は大きく上昇しており、家庭と連携した食育への取組の成果が評価された。
- ・今年度から新しく追加された、多様な専門性を有する学校スタッフに関する質問では、「円滑なコミュニケーションが図れている。」は高い評価だったが、「教員の業務が軽減されている。」の肯定的回答率は非常に低く、数値指標を大きく下回った。学校スタッフの効果的な活用が今後の課題である。
- ・運動に関する質問の肯定的回答率も数値指標をやや下回った。外遊びや運動への取組状況は個人差が大きい傾向が見られる。生涯スポーツの基礎となる運動の楽しさや充実感を得られるような取り組みを工夫していきたい。

6 学校関係者評価

- ・全体アンケートではあいさつへの評価が高まっているが、実態からも児童の挨拶が良くできるようになっていると感じる。特に、来校者に対して児童から積極的に挨拶ができています。しかし、個人差が見られ、地域においては登下校時の挨拶が進んでできなかったり声が小さかったりする児童も見られる。
- ・運動に関して数値指標を下回る結果となったが、運動が好きな子もいるし室内で読書などに関心をもって取り組む子もいるだろう。一人一人の特性を考慮せずに一律に運動を強制することがあってはならない。個に応じて一人一人のよさを伸ばしていけるような支援が必要である。
- ・地域への行事やボランティア活動（ラジオ体操や清掃活動など）への参加はあまり積極的ではないのが実情である。子ども参加を促すためには、保護者の協力が不可欠であるので、保護者への声掛けを今後も行っていきたい。
- ・いろいろな地域と関わりをもつことが多いが、宮の原地区は各団体の組織がしっかりしており、行事やイベントが盛んに行われるなど、地域としてのまとまりが感じられる。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・今年度も年間7回、学校長表彰（宮小キラリ賞）を実施したので、次年度も継続して実施したい。子どもの頑張りを認めたり、善行を奨励したりする場を設定することで、学校生活全般への意欲を高め、さらに自己肯定感を育てていきたい。
 - ・次年度も各種便り等を通して積極的に情報を発信し、家庭や地域の協力が得られるように努める。
 - ・次年度も引き続き、オープン研修の周知を図り、広く授業を公開し、教職員としての資質・能力や指導力の向上に努めていく。
- 次年度もあいさつ運動などの取り組みを継続し、明るいあいさつの輪を広げて、定着を図っていきたい。
- ・「時と場に応じた言葉づかい」については、昨年度よりもさらに改善してきたが、引き続き意図的継続的な指導に努め、家庭にも協力を呼びかけ、家庭と学校が共通認識のもとで指導できるようにしていく。
 - ・昨年度変更した項目「児童は平日の授業後や休日などに積極的に運動している」の保護者と児童の評価が低いので、帰宅後や休日にも積極的に外遊びや運動できるように呼びかけていくと共に、児童一人一人がめあてをもって体力づくりに取り組めるよう指導していく。
 - ・これまで同様、休日のPTAの行事や地域の行事等にはできる限り参加するとともに、積極的に声をかけるなどして交流を深めていきたい。
 - ・今後も読書の質の深化が図れるよう、図書室利用の工夫や読書指導、選書支援等を実施し、本に親しませる機会を多く設けていくようにする。
- 今後も児童の自主性を大切に活動を一層重視するとともに、中学校とも連携を強化しながらボランティア精神の涵養にさらに努めていく。
- ・家庭学習への取組は一定の成果を上げることができたので、さらに意欲の向上を図り学習内容の質の向上を目指すことができるような指導法などを工夫していきたい。